

## 連載 ニュースな話&amp;人物クローズアップ

## アイデアで勝負

本誌：松沢良治

リニューアル全盛の今、「ホテルサンルート名古屋」(経営は株式会社ナカモサンルート)も20年以上を経て新しくなった。名前も「ホテルサンルートプラザ名古屋」と変わった。館内施設がすべてリニューアル。アイデアを至る所に盛り込み、使い勝手が格段に向上した。限られた空間をこれほどまでに効率よく改修した事例はそう見られない。

開業したのは85年。今年で21年になる。名古屋駅から歩いて5分。全面リニューアルを経た現在、総客室数は275室。宴会場3カ所、レストランラウンジ1カ所(これまでは2階にあったが今回の改修で1階に移動)というビジネス客主体のホテル。

試泊して感じたのだが、なんととっても一番驚いたのは液晶テレビ。壁に埋め込まれており、ベッドに入って見るときは壁から引き出す形でテレビの角度を変えることができる。すごいアイデア。

布のカーテンをやめて遮光とレースのツインシェードを採用。そのためすっきりとした客室に変身している。さらに大形の鏡を取り付け部屋に奥行きを感じるようにした。

また客室タイプによっては出窓があるところもあったが、その場所には小さめのソファを埋め込み空間の有効活用を図った。また遮光シャッターを採用し、完全遮光を実現した。

このように至る所にアイデアが光る改修を実施しており、えらく感心してしまった。



改修のアイデアが詰まっている「ホテルサンルートプラザ名古屋」

同ホテルを経営する杉本邦彦代表取締役社長は次のように語る。

「お金をかけて見違えるようにするのはだれでもできるが、予算の範囲内で工夫を凝らして予算以上の見栄えがする改修となると、ホテルを知っていながら、しかもセンスがないとできない。今回の改装は見事にそれを成し遂げたという感じがします」

担当したインテリアデザイナーはヤスデザインアソシエツ代表の深津泰彦氏。「大変面白く仕事をさせていただきました。テレビを壁から押し出すようにして角度を変えるのは、ブルガリホテルで見参考になりました。最近は何回かの仕事が多く、いろいろな条件に合わせた設計をしております。時に無理難題と思われるようなこともあります。施主と協議を重ね、お互い納得できるように、そしてお客さまに満足と驚きを与えられるデザインをするよう心がけております」

客室のメイン商品であるベッドは、米国のレストニック社ブランドのボンネルコイルマットレスを採用。これは『コンシューマーズ・ダイジェスト』誌が主催する「消費者が選ぶ最も優れた製品」を4度も受賞している。大きさも幅1100mm以上、長さ2000mm、高さ460mmと大型。羽毛布団を採用し快適さがさらに向上している。

冷蔵庫も全室更新。静音式のコンプレッサータイプ(前面入切スイッチ付き)を導入し、騒音への配慮もしている。

総投資額は10億円。従来のセントラルヒーティング方式から個別の空調機に変更し、各部屋ごとの温度設定を可能にするなどの工事と、レストランを移動するなど大型工事に費用がかかっている。

サンルートホテルチェーンでは現在76ホテル(直営9、FC・RF67)があり、次々と改装を進めている。サンルート国際ホテル山口は今年2月に全面改装を終了しており、来年の秋には624室の「ホテルサンルートプラザ新宿」が誕生する。その前に「ホテルサンルート東新宿」(311室)が来年の春に開業するなど、サンルートグループの動きが活発化している。